

# 大田市場共同荷受推進協議会

構成組織：東京青果(株)、東京荏原青果(株)、東一神田青果(株)

## パレット化に関する導入事業

### 事業概要

- 産地ドライバー不足、国内生産量の減少、生産者の高齢化により大都市の拠点市場へ出荷集約を進める産地が増えてきているが、荷下ろし待機時間の増加や市場内の場内渋滞などの問題が発生
- 荷降ろしの現状として、1社の荷下ろしを終えてから次の荷下ろし場へと移動を行い、複数回の作業が発生している非効率的状況にある

- トラックドライバーの市場内滞在時間削減と場内動線複雑化解消のため、大田市場卸3社が連携を図り、共同荷受を実施。
- 効率的な共同荷受体制を整えるために下記導入を実施
  - ・クランプフォーク3台、フォークリフト1台
  - ・トランシーバー10台

### 目標

- 2027年度中には、産地トラックの市場内待機時間とレンタルパレット積替え時間の3割削減を目標とする

### 導入された設備・機器



### まとめ

#### クランプフォークの効果

- クランプフォークの導入によってパレット積替えが容易となり、積替え時間が短縮
- 東京青果・東京荏原青果・東一神田青果3社のレンタルパレット共同回収の実現により、従来かかっていたパレットの回収作業時間が短縮

#### トランシーバーの効果

- 荷受時において、離れた場所に位置する作業員同士で円滑な情報共有が図れるため、荷捌きにかかる時間短縮等に寄与
- 物流面において、作業員同士の密な情報共有により卸3社間の連携強化にも貢献

#### 今後の取組

- 現行の共同荷下ろし試験の継続と検証を引き続き実施し、より効率的な運用を図る
- 共同荷受の事例が希少であるため、実際的な運用体制を段階的に確立し、大田市場内外での利用拡大を図る

# 緊急強化総合対策事業みやざき協議会

構成組織：宮崎青果(株)、宮崎中央市場バナナ(株)

## コールドチェーンに関する導入事業

### 事業概要

- 農産物を安定的に調達するためには、卸売市場内の荷受け体制等の改善が課題である
- 荷受けは一定の時間帯に集中するため、産地別に搬入の時間帯を調整を図る必要があるが、時間帯によっては対応可能な人員が少なく、搬入時間や長距離トラックの駐車場所などの調整を行うことが難しい状況であり、トラックドライバーの拘束時間に影響する
- 輸入青果物であるバナナはシトラス類やリンゴといった果実に比べ、在庫を抱えることが難しい。荷受けの頻度を高めることで対応していたが、卸売市場内の荷受け時間のピークに重なり、荷受け体制を整えることができずにトラックドライバーの待機時間が発生する

- 協議会で優先的に使用できるフォークリフトが現状1台のみであり、荷捌きが追い付かず、結果手降ろしといった手荷役による非効率な作業が発生していることに鑑み、下記導入を実施
  - ・利用されていないバナナ保管庫の冷蔵設備
  - ・フォークリフト1台

### 目標

- 2027年度中には、当協議会における運送本数を30%以上減少させ、ドライバーにおける荷待ち拘束時間を30%以上削減させる

### 導入された設備・機器



### まとめ

#### 冷蔵設備の効果

- 使用されていないバナナ保管庫に冷蔵設備を導入したことで、冷蔵保管スペースが拡大されており、搬入時間の速やかな調整が可能となり、鮮度維持とドライバーの待機時間の削減に寄与

#### フォークリフトの効果

- 速やかな青果物の搬入により鮮度劣化防止と待機時間の削減に寄与

#### 今後の取組

- 冷蔵設備は完備したが、実際の運用では従来のやり方からの脱却が図れていないため、社内各部の連携を密に取りあい、より効率的な運用を目指し、外部の冷蔵庫の使用を減らして経費の削減を図る
- 輸送面では、業務課（荷下ろし部門）、運送会社との連携を密にすることで荷待ち、荷下ろし時間の削減を図る

# 大阪市場物流改善協議会

導入者：大果大阪青果株式会社（構成員）

## 場内物流改善に関する導入事業

### 事業概要

- 大阪市中央卸売市場本場は荷下ろし場所が狭く、トラックの待機時間が非常に長いことが課題として挙げられる。荷受けの分け方や荷下ろし従事者の出勤時間帯変更等対策を行い、改善に努めているが解消に至っていないのが現状である。
- 果実棟は野菜棟とは離れており、野菜棟で一部荷下ろしを行った後、果実棟へ移動し荷下ろしを行う場合がある等、ドライバー拘束時間の増加を招いている。

- 野菜棟で一時的に果実を保管することができる保冷スペースがあれば、トラック移動回数を削減し、荷下ろし待機時間の改善が期待できる。市場内の荷下ろし渋滞を改善するために、下記導入を実施

### ・冷蔵庫1基

### 目標

- 2027年度中には、トラックの拘束時間30%の削減、JAさがとの取扱数量8,700t(5.9%増)、3,400百万円(6.7%増)を目標とする。

### 導入された設備・機器



### 冷蔵設備の効果

- 冷蔵庫を新設したことにより、素早く野菜・果実を低温管理しつつスムーズな荷下ろしが実現
- 青果物の一定の品質を維持できる期間が延びたことによる在庫期間に余裕が生まれるとともに、まとめ出荷等による荷扱い量の増加
- 荷下ろしされた青果物を冷蔵庫内にまとめて一時保管できることにより、複数個所でトラックが停車して荷下ろしを行うといった従前運用がなくなり、その結果、市場内の荷下ろし渋滞改善に寄与

### 今後の取組

- 冷蔵庫を導入したばかりであり実際の運用が定まっていないため、効率的な使用を見据えた運用整備に関する検討が必要
- 佐賀以外の九州産地や東北産地に対する協力を仰ぎ、取扱数量を伸ばす